

街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

● 荏原第一地域新聞 ●

第203号

令和2年(2020)2月発行

発行・事務局

○荏原第一地域センター○

小山3-22-3 (〒142-0062)

TEL 3786-2000

FAX 3786-5385

花めぐり

サボテン

映画の西部劇で見るとおなじみのこのサボテンは、柱状に伸びる形状の品種を総称して「柱サボテン」と呼ばれています。中でも柱上部で分岐する頼もしい姿から「弁慶柱」とも呼ばれています。故郷はアメリカのソノラ砂漠で、上を向いて育つ存在感・生命力のある姿が魅力的です。

この写真の柱サボテンは3メートル程あります。花言葉は「困難に耐える」「暖かい心」など。「タマサボテン」はメキシコの乾燥した岩場などに生息します。「タマサボテン」には黄色味を帯びたトゲがあり、太陽の光を浴びて金色に輝く



姿から、金鯪(キンシャチ)とも呼ばれています。花言葉は「儂い夢」「憂い」。寒い時期に人が両手を挙げていたような何となく人間的に見えるユーモラスな風貌と丸くころんとした姿のサボテンを楽しんでください。荏原2丁目で見られます。

(小山4丁目・東 美佐栄)

荏原第一地区区政協力委員会並びに荏原第一連合町会新春初顔合わせが、1月22日(水)に、スクエア荏原で行われました。冒頭の会長挨拶では、荏原第一連合町会の戸田光則会長が挨拶。戸田会長は武蔵小山駅周辺の再開発の進行状況について触れ、地域の活性化に期待を寄せられました。さらに、今年開催される東京オリンピック・パラリンピックについても触れ、町会としても盛り上げ、世界各国から来日される方々をお迎えしたいと挨拶されました。本初顔合わせには、濱野区長を始め多くの来賓の方々にもご出席いただきました。

今年も荏原第一地区の更なる飛躍を祈念します。本年もよろしくお願いたします。(事務局)

前回は、同じタイトルで掲載してから4年の歳月が流れた。時代も平成から令和へと移り変わったが、恒例の行事は脈々と続いている。大晦日、朝から晴天で風もなく小春日和の暖かさだったが、夕方から急に寒気と共に風も強まった。本来であれば22日より「古神札焼納祭」が行われるはずだったが、強風のため中止となった。23時から本殿で「除夜祭」が始まった。宮武宮司による祝詞奏上後、石井和正総代会長始め総代衆及び家族連れ参拝者計30数人が一人ずつ大神様に玉串を奉奠し、二礼二拍手一礼を以て今年一年の感謝と無事良き年の招来を祈念した。23時半頃から参拝者が次々と参集し列をなした。あちこちで「寒いねえこんなこと滅多にないね」の声や「こえた。私も厚着をして来たが身体中が底冷えし身震いした(ちなみにこの時間帯の気温は4℃風速は約6mとのこと)。

連合町会 新春初顔合わせ



戸田会長ご挨拶

ゆくゆく年・・・
三谷八幡神社「素描」
その2

防災☆ワンポイント

(東京都発行「東京防災」より)

●避難の判断

むやみに動く危険

家の中からあわてて飛び出すと、落下物に当たって負傷する危険があります。まずは落ち着いて、家族と家の中の安全を確認。その後、周辺で危険な物・建物がないか、火災が発生していないかなどを自分の目と耳で確かめます。



近所の安否確認

家族の安否が確認できたら、隣人・近隣の住民に目を向けましょう。閉じ込められたり、下敷きになったり負傷した人などがいないか、さらに避難の手助けを必要としている人がいないかを確認。いざというときは、助け合うことが重要です。



自宅以外で安全ならその場にとどまる

地震直後は駅周辺や道路も大変混雑し、大規模火災の発生や建物の倒壊など二次災害に巻き込まれてケガを負ったり命を落とす危険も。会社や学校の安全が確認されたら、すぐに帰宅せずその場にとどまって様子を見ます。地震直後の連絡方法や行動をあらかじめ家族と話し合っておきましょう。



シリーズ

品川平塚剣友会③

子どもと向き合う

荏原4丁目・大高一浩

「令和」に入って初めての地元神社への初詣。ここにも日本人の伝統と心が息づいていた。(三谷八幡神社総代)

どうぞ「いただきます」を發した。その列の中に甘酒係(今回は小山4丁目の皆さん)が温かい甘酒を振舞ってくれた。寒いのでお替りした人が何人もいた。

小山5丁目五友会の神輿が入ってきた。ライトアップされた大神輿を約百名の担ぎ手が威勢よく新年を寿いでくれた。参拝を終えた人々が左手のテントに設えたお札やお守り、破魔矢、おみくじ等を買っていた。午前1時40分頃、参拝者の列も途絶え、邪気を払い無病息災を祈念し、打ち続けてくれた太鼓の音も止んだ。「令和」に入って初めての地元神社への初詣。ここにも日本人の伝統と心が息づいていた。(三谷八幡神社総代)



被らせて好きなように面を打たせるようにしています。これに児童は大喜びです。其時には人の頭を叩くことはいけないう事であり、それが可能なのは道場だけであることを徹底して諭します。それが仲間や相手を尊重していく剣道の教えであると思います。

時には、未だ素振りのできない子には面を打たせるようにして

剣道は既に完成された日本古来の伝統文化であり、古からの教えを伝承することが大事であって、正しい剣道を指導し理解度を高めることが指導者の務めだと思えます。

初めは稽古着は勿論、防具等も着用させません。しっかりと本人が稽古に関心を持ってからでも遅くはありません。入会してから約半年を目途にかかり稽古を始めます。

剣道を始めると児童の大半が、剣道に対する父兄の憧れや、元気な子どもにも育ってほしいという父兄の思いから入会します。児童にまずは、道場に來たくなるよう興味を持たせることを意識しています。同時期に入会される児童もいます。できる限り同じスピードで上達してもらい

2018年8月に小学3年生の女の子とお母さんが入会され、月・木曜日の稽古会を一日も欠かさずに励まれました。真夏の暑い時期を乗り越えて、約10カ月の修行を積み、2019年6月9日の審査会で見事、お母さんは一級を、お子さんは五級を習得いたしました。お二人の喜びは格別でした。子どもの頑張る姿は、指導者として安らぎを感じる一コマです。

(荏原3丁目・池田晴夫)